

	種類	考えられているはたらき	起こりうる副作用の例
分子標的薬	血管新生阻害剤	新たな血管の形成を阻害することで、腎がんへの血液供給を抑制する	高血圧、皮疹、手足症候群、下痢、かすれ声、口内炎など
	mTOR阻害剤	がん細胞の増殖を抑制する	皮疹、口内炎、高脂血症、食欲不振、高血糖など
免疫療法	サイトカイン療法	腎がんの増殖を抑制 がん細胞に対する免疫のはたらきを高める	発熱、悪寒、関節痛、倦怠感、抑うつ症状など
	免疫チェックポイント阻害剤	がん細胞の表面に現れる、免疫から逃れる分子をブロックすることで、免疫によってがん細胞が攻撃されるようにする	疲労感、発疹、かゆみ、白斑、下痢、悪心、嘔吐、内分泌障害、肺障害、胃腸障害、神経・筋・関節障害、肝・胆・膵障害、皮膚障害など